

石クリ通信

2月号

歴史を学ぶ

院長 石川 悟

昨年読んだ本の中で、一番印象に残ったのは、次の文章です。「私たちは、現在の社会状況に対して判断を下すとき、あるいは未来を予想するとき、無意識に過去の事例を思い出し、それとの対比を行っています。その際、そこで想起され対比される歴史的な事例をどれだけ豊かに頭のなかに蓄積できているか、これが決定的に重要です。」（加藤陽子著 それでも日本人は「戦争」を選んだ）

東日本大震災では、関東大震災で起こった流言飛語による朝鮮人の虐殺のような悲惨な出来事はありませんでしたが、原子力発電所の被害状況は、日本国内よりも海外のメディアの方が正しく報道していたという、太平洋戦争の「大本営発表」に近いことが起きました。新型コロナウイルスのパンデミックでは、医療関係者はワクチンができればそれほど心配することはないと、比較的冷静でしたが、東京で感染した人の帰省した家に、石が投げ込まれるという現代では考えられないような蛮行が起きました。昨年の日立市の台風被害では、市庁舎が浸水、停電しましたが、それを「想定外」と述べた市長の発言に批判の声が上がりました。

停電、断水などいわゆるライフラインの途絶に対して物品を備えておくのは大切です。それだけでなく自然災害、原子力災害、そして外国との紛争など未来に起きることを想定し、また非常事態において自分がどのように考えて行動していくか、日頃から視野を広げるために、歴史を学ぶおくことがとても重要だと思っています。

初詣

看護師 太田 小百合

今年は夫が還暦を迎えるということもあって、宇宙飛行士も認めたパワースポット「御岩神社」に初詣に行ってきました。

早朝四時に出発し、五時過ぎにはお詣りができました。境内に入ると空気が一変したように感じ、ご神木の三本杉の見事な立ち姿に圧倒されて、「わあ、すごい」と思わず声を出してしまいました。初めて行ったのですが、とても感動しました。これからは気分転換したい時など、ちよくちよく行くこうと思います。



手のひらのお守り

看護師 澤田 彰子

私は子供の頃から先祖に守られて運がいい方でした。でもコロナが流行して以来、私の周りでは良い事がありませんでした。ふと気づいたら手のひらの十字架が消えかかっていた。そういえばお墓参りをしばらくサボっていたのでお墓参りにちやんと行くこうと思います。

災害の備え

事務長 石川 都

今年は元旦から日本列島には文字通りの激震が走った。故郷へ里帰りして新年祝の最中に被災し、四世代の家族親族全員を家の倒壊で失った人もいた。その男性が現場で悲しみをこらえつつも捜索隊の人々への感謝を述べ、後の葬儀でも亡くなった家族へ幸せだった日々への感謝を述べていたことに、胸を衝かれた。

また二日の羽田空港の日航機火災にも驚いた。テレビでは飛行機が燃えながら滑走路を走り、画面からは脱出する人の姿も見えないので、ただテレビの前で気を揉んでいた。幸い奇跡的に、搭乗客もクルーも全員無事に脱出できたとの報道には、胸を撫で下ろした。ただ衝突した海上自衛隊機も、能登の被災地への物資輸送機だったとのことで、痛ましかった。日航機のCAは皆新人だったそうで、機内無線も切れた中、炎の出ている非常口を見きわめて訓練通りに乗客を避難させ、最後に機長が機内の無人を確認した後に脱出したとのことだった。これまで外国機や外国船では、緊急時にクルーが我先にと逃げ出した例もあったので、今回の日本の見事な危機対応には、世界中から賞賛の声が上がった。

東日本大震災の際も、店先に整然と並んで辛抱強く入店を待つ人々の姿に、諸外国の人々は驚いたという。災害時には住民の暴動や略奪が起きる例も多いのに、日本人の秩序正しさは何によるのか・・・と不思議がられた。日本では殆どの人が自覚的宗教を持たないが、「お天道様は見ている」等の宗教的倫理的態度は、近隣諸国の中でも群を抜いていると思う。こうした非常時や緊急時にこそ、普段の人格や品性が如実に出る。悲しみや絶望の中でも自暴自棄にならず、周囲への感謝を果たして言えるだろうか・・・災害時の物品の備えも必要だが、それ以上に心の備えが大事かもしれないと思った。

観るのは楽しいです。

事務 森 多加子

バスケットボールBリーグ、茨城ロボッツの試合を観戦してきました。アダストリア水戸アリーナで行われたのですが、地元チームの試合とあってロボッツのユニフォームを着たファンの方々が大勢来ていました。初めて観るプロの試合は迫力があって圧倒されました。私は運動が苦手なので体育の授業が憂鬱でしたが、観るのは楽しいですね。また行きたいと思っています。

やっと届きました

事務 吉田 政子

車を乗り換えようと、色々検討し、何度も販売店に足を運び、自分でも納得のいく小型のSUV車を昨年の2月に注文しました。9月には納車予定となり、7ヶ月間首を長くして楽しみに待つことになりました。

5月に入った頃、認証申請不正のために出荷販売中止となってしまう、9月になっても状況は変わらずで、長くなってしまうのが伸びきってしまった頃、顧客から受け付けた注文をすべてキャンセルと言った衝撃的なニュースを耳にしました。縁がなかったと諦めるしかありませんでした。

また、いちららの車選びです。私が乗っていた車に新型が出るらしい事は知っていたので、カタログだけでも思い、販売店に立ち寄ってみると、なんと本日から新型車の受注開始日でした。これは運命なのでは、縁があるのではと根拠のない直感を感じ、すぐに新型車に決めました。

そして、昨年の2月から紆余曲折を経てやっと先日納車されました。今度の車は免許返納まで、大切に乗り続けようと思います。

誕生日

看護助手 柴田 さち子

今年も誕生日には、娘夫婦からマフラーと温泉の回数券をもらいました。またクリニックでは誕生会を開いて頂きました。ありがとうございます。誕生日は幾つになっても嬉しいものです。今年も元気で頑張ります。



会派視察

庶務・ウェブ担当 石川 香

徳島県の上勝町に行ってきました。ここは45種類、80%以上のリサイクル率の「ゼロウェイスト」タウンとして有名です。元々ゴミ収集車が走っておらず、人口が千五百人程で始めやすかったのかもしれないですが、例えばこの町では、納豆のたれ・からしを絞り出したものも捨てずに魔ブラとしてリサイクルされ、固形燃料になります。リサイクル出来ない残りの20%は分別出来ない素材など、企業努力が必要な部分です。作る・儲けるだけでなくサステイナブルが必要なのだと実感しました。